

中間評価（ステージゲート審査）結果

1. 研究課題名： 時空自在計算による究極のディスプレイの設計手法
2. 研究代表者： 小泉 直也（電気通信大学 大学院 情報学専攻 准教授）
3. 中間評価（ステージゲート審査）コメント

本研究課題は未来のディスプレイを、物理法則に従ったコンピュータグラフィックを用いて設計し、バーチャルリアリティ空間で心理物理実験による評価を行うことで、ディスプレイの理想の形を追求するものである。

フェーズ1ではレイトレーシングによる設計を広げるための新規光学素子モデルの生成について、全方位結像光学系空中像の実現など、実用的な研究成果を出し、国際特許の出願につなげている点は評価できる。また、他の創発研究者と共同で新しい CG モデルを構築した点も評価できる。

フェーズ2では空中像の生成をテーマとして、新たな光学系の提案、設置環境のデザイン、メタバースへの拡張などが計画されているが、どちらかという設計手法の検討が中心となっている。究極のディスプレイとは何か、何ができれば良いのか、何を目指すのか、というビジョンを打ち出して研究を進めることを期待する。また、継続して国際会議や海外企業の動向を調査して、競争力があることを確認しながら進めていただくことを期待する。

以上